

(様式2)

3 2 0 0 3

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月3日
札幌市立篠路中学校

1 本年度の学校経営の基本方針

一人一人のよさを発揮し、認め合う

2 本年度の学校経営の重点目標

(1) 「学ぶ力」の育成 (2) 生徒支援の推進 (3) 自治的な活動の推進
(4) 特別な支援を要する生徒のサポート (5) 家庭や地域とともにある学校づくり

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
全般	重点目標は本校の実態から見て適切であるか	A	・札幌市学校教育の重点と本校の重点目標は関連付けられており、さらに現在の学校課題とも合致しているため、適切であると考えます。 ・生徒の実態把握に努め、見直しをもった計画的、継続的な教育活動を家庭や地域、関係機関等と連携しながら進めることができたので、今後も継続していく。	A	A
	生徒一人一人が生き生きと活気のある生活を送っているか	B	・生徒アンケートの「学校では、自分の良さを発揮し、認め合う機会があると思う。」「学校では、互いの個性を認め、いろいろな人と協力して物事をすすめることができると思う。」という項目に対し、肯定的な回答がともに8割であった。残り2割の声も真摯に受け止めたい。 ・自分の良さや可能性を自覚でき、他者の良いところを認め合える活動を充実させ、自己肯定感、自己有用感を高める指導を心掛けていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・適切な視点と配慮のある重点目標をもって、活動がなされてきたと評価します。 ・部活動の地域展開について、地域全体で支えながらも、教職員の中で希望者がいれば指導員として活用するのが望ましいと考えます。また、家庭の経済状況に関わらず生徒が参加できるように、市教委と相談して支援体制を整備してほしい。			
学習	確かな学力を身に付けさせる指導を進めているか	B	・生徒アンケートの「授業の内容が『わかる・できる・楽しい』と感じている。」という項目に対し、肯定的な回答が8割であったが、得点力の向上になかなか結び付いていない。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」のバランスを調整したり、反復学習を充実させたりする等して基礎・基本の定着をはかる。また、生徒が達成感を得て学習意欲を高めていけるよう、指導方法の工夫・改善をはかっていく。	A	A
	学習習慣を身に付けさせる指導を進めているか	B	・生徒アンケートの「学習について、先生方に適切にアドバイスをもらっていると感じている。」という項目に対し、肯定的な回答が8割であった。 ・学習に対する不安や困り感を把握し、ご家庭の協力を得ながら、一人一人にあった学習方法について、親身に助言を行っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・アンケートの回答で肯定的ではなかった2割の生徒たちにも、適切な学習習慣と確かな学力が身に付くよう、生徒一人ひとりが何に困っているかをよく把握し、指導方法の工夫・改善を継続してほしい。			

(様式2)

生 活	いじめのない学校づくりに 具体的に努めているか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の生徒観察や相談対応から、いじめの未然防止や早期発見に努めており、臨時及び定期的に開催しているいじめ対策委員会において、SCやSSW等の助言を得る等しながら、適切に対処している。 ・保護者アンケートの「学校は、いじめのない学校づくりに取り組み、自分の居場所が感じられ、安心して登校している。」という項目に対し、肯定的な回答が85.7%であった。 ・教育相談体制の一層の充実を図るとともに、いじめが起きにくい・いじめを許さない安心・安全な環境づくりに努めていく。 	A	A
	生徒理解に努めているか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は、生徒理解のもと、生徒に寄り添った教育相談・生活支援に努めている。」という項目に対し、保護者アンケート結果の肯定的数値が83.3%であった。 ・心の健康観察アプリの活用や日々の観察から生徒の悩み等を把握し、親身な相談対応に努めていく。 ・不登校や不適応生徒に対しては、学びの支援委員会を中心に、SCや関係機関との連携を強化し、全職員で協力して支援に当たっていく。 	A	A
学校関係者評価委員 による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、いじめの未然防止や察知力向上、発見後の再発防止等、総力で取り組んでいることを評価します。いじめのほか、気付くのが難しい虐待やヤングケアラーなどで困っている生徒を察知できるよう、調査アンケートを工夫するなどして、早期発見に努めていただきたい。 ・不登校生徒や不適応生徒が減少していくよう、今後も支援に務めていただきたい。 			
連 携	家庭・地域との連携を深める 活動が進められているか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの「学校は、保護者と協力して教育を進めようとする雰囲気がある。」という項目に対し、肯定的な回答が76.2%であった。 ・生徒会を中心に、地域の除雪ボランティア等の活動を行った。また、スクールバンドの演奏を通して地域の認定こども園や高齢者施設との交流を進めた。 ・札幌らしいコミュニティ・スクールの実施に向けて、地域の方やパートナー校の担当者を含めて話し合いを重ね、本校の教育方針や目指す生徒像を共有し、地域が一体となった取組を進められるように準備を行っていく。 	A	A
	開かれた学校づくりに努め ているか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観のほか、篠中祭やダンス発表会、体育大会、各種講演会等、保護者の方に生徒の様子を見ていただく機会を多く設けている。 ・保護者アンケートの「学校は、学校の取組や生徒の様子を、お便りやホームページ等で適切に伝えている。」という項目に対し、肯定的な回答が86.9%であった。 ・今後も行事等の公開を積極的に行うとともに、お便りやホームページで生徒の活動の様子をお伝えしていく。 	A	A
学校関係者評価委員 による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・除雪ボランティアには、凍傷や落雪事故のリスクもあり、中学生が取り組むボランティアとして適切かどうか、安全をどう確保するかを含めて、継続するかどうか判断していただきたい。 ・地域の方々とのふれあいを大切にした、教育的観点も考慮した新たなボランティアの在り方を検討することも必要と考えます。 ・地域行事に学校が参加できる機会を増やせないか検討していただきたい。 			